

# 性的欲求度と生殖行動の相互作用について

## Interplay between Sexual Desire and Reproductive Behavior

森木美恵 (国際基督教大学)

Yoshie Moriki (International Christian University)

松倉力也 (日本大学人口研究所)

Rikiya Matsukura (Nihon University Population Research Institute)

### 目的・背景：

本報告は、日本における性的欲求度と生殖行動の人口動態的側面を探求することを目的としている。近年、人口学の分野においても日本社会における夫婦間の性交頻度の非活発性とその再生産活動への影響について活発に議論されてきた。学問的知見の蓄積が評価される一方で、ある種自明のこととされてきたためか、人々の「性的欲求度」とその生殖行動との関係についてはまだ明確な分析がされてきていない。両者は正に連動しているのか、または独立した変数であるのかなどに関してデータをもとにした判別は困難であった。しかし、わが国の少子化の加速を念頭に、性的欲求度が出生率に与える影響の有無と程度について実証的な分析を行っていくことは今後の日本の人口動態を論じる上でも重要な知見になるといえる。

### データ：

毎日新聞社が 1950 年から実施した「全国家族計画世論調査」、およびその調査を引き継いで日本大学と WHO が実施した「仕事と家族に関する全国調査」を継続する形でデザインされ、東京大学が 2020 年に実施した「第 2 回少子高齢化社会における仕事・出生・家族に関する全国調査」を使用する。総ケース数は 2922 人である（男性 1316 人、女性 1606 人）。この調査に設問として含まれている性的欲求インベントリー (SDI-2: Sexual Desire Inventory-2) を本報告での性的欲求を計測する指標とした。このインベントリーは、Spector, Carey & Steinberg (1996) によって開発された指標であり、この調査用に日本語バージョンが作成され、使用許可を開発者からとっているものである。

### 分析方法・結果：

分析対象は、再生産可能年齢である有配偶者とし、男女別に性的欲求度と、性交頻度に関しての関係性を、個人属性をコントロールして推定する。さらに、子どもが欲しいカップルについても、この性交頻度と性的欲求度の関係がどのように作用しているかについても分析を行う予定である。